

みんなの力

みんなで力を合わせたら、
何かとんでもない奇跡が起こせるんじゃないかと思っていたあの頃の私は、
奇跡を探して歩いていたが見つからないので仕方なく、
同じクラスのあの娘の恋を叶えてあげる事にした。
ところがなかなか「みんなの力」は集まらない。
それはそうだ、みんなだってあの娘が好きなあいつの事が好きなのだ。
かく言う私だってそうだ。
恋を叶えるどころか「みんなの力」を集めること、
それ自体が奇跡だという事にようやく気付いた私は、
あの娘の恋はやめて、別の事にした方がいいんじゃないかと思ひ始め…。
ところで話は変わりますが、今日の前に UFO が居る。

～公演チラシより～

なんでこんな事やってんだらうと思う事のひとつに演劇が挙げられるのですが、
今回はそんな「なんでこんな事やってるんだらう」というお話です。
最初は、幾つかの話が交差するロバート・アルトマンの「ショート・カット」みたいな
群像劇を書こうとしてたんです。でもそのいくつかの話を具体的に考えてみたものの、
どれも花開きそうになくてウジウジしているうちに、
ああだこうだと「しりとりに」なってしまいました。
「しりとりに」を取っ掛かりにしてリレーか駅伝選手の話にしようと思ったのですが、
でもスポーツ系の面白い演出が思い浮かばなかったので、結局「しりとりに」だけが残りました。
「しりとりに」なのでもちろん頭の文字が決まっているのでそこそこ制限されます。
でもまあ書ける事は書けます。
すると、これはどこまで制限したら書けなくなるのかやってみたくなくなってしまいました…。
でも書いててしんどくなると、なんでこんなにも自分に制約を設けなくちゃならないのかと
腹が立ってくるし、この辺りで思うのです「なんでこんな事やってるんだらう…」と。
投げ出そうとする思いを何度も振り払って、
今回の出演者に助けられ文字通り「みんなの力」をお借りして書きました。

～公演パンフレットより～

登場人物 足立洋子／女子生徒

梶田知美／女子生徒

沢井里菜／女子生徒

田山美紀／女子生徒

内藤亜田美／女子生徒

浜野有梨／女子生徒

松本祥子／女子生徒

和田一実／女子生徒

楽山豪／男子生徒

矢野愛／女子生徒

とある高校。

教室。

放課後。

放送部による下校のアナウンスが流れている。

和田 それでは下校の時間になりました。許可なく校内に残っている生徒は、すみやかに下校の準備をして帰りましょう。許可を得て、校内に残っている生徒は、帰る際、教室の電気を消して、戸締りを確認してから帰りましょう。それでは皆さん、また明日、元気に登校しましょう。さようなら、そして、さようなら。

洋子、やってきて、椅子に座り、ため息を吐く。

やがて、沢井がやってきて、

沢井 あ、居た。

洋子 あ、ごめんね。

沢井 ううん。ねえ昨日さ、夜、空見てたらさ、すっごい光って、昼間かっくらいらい。

洋子 え、隕石？

沢井 かなあ、ネットで調べただけどどこにも載ってなくて、
洋子 え、何時くらい？

沢井 一時くらい。

洋子 なんてそんな時間に空見とったの？

沢井 え、なんとなく。

洋子 もお、止めやあよタバコ。

沢井 ちゃうわ。実は最近多いんだよね、

洋子 何が？

沢井 UFOなんじゃないかって噂もあるよ。

洋子 何それ(笑)

沢井 UFO出現は天変地異の予兆とも言われている。

洋子 ユーチューブの観すぎだわ。

梶田と田山が「しりとり」をしながらかやってくる。

沢井 これ、椅子どうする？

洋子 ああ、どうしようかな

沢井 何人来るんだっけ？

洋子 えっと、

田山 (コンタクトが外れたのか) あ、ちよっと待って…

梶田 イカ、

沢井 …、

梶田 イカ、食べ物縛り、イカ、

沢井 かんべんしてよ。

梶田 ヨーグルト。

沢井 とつても疲れてんのよ私。

梶田 しょうゆ。

沢井 夕方がさ、一番眠いんだよ。

梶田 よっちゃんイカ。

沢井 勘弁してって。

梶田 手羽先。

沢井 昨日ほとんど寝てないんです。

梶田 すし酢。

沢井 ずんだ。

田山 黙って聞いてりやあ文句はつか言いやがって、てめえで勝手に夜更かしたんだらうが

この不良娘。

梶田 めかぶ。

沢井 ぶり。

田山 りんご。

梶田 ゴリラ。

沢井 ラッパ。

田山 パンツ。

洋子 食べ物じゃなくなつとるが。

梶田 …がんもじぎ。

沢井 昨日ね、五年も生きてたハムスターが死んだのよ。

田山 よくそんな生きてたね。

梶田 ねぎ。

沢井 ギネス記録は四年と半年らしいよ。

田山 余裕で越えてるじゃないのさ。

梶田 さんま。

沢井 まあ、ホントはもっと長生きしたのがいるらしい、八年とか。

田山 考えられんな。

梶田 梨。

沢井 死んだハムスター庭に埋めたらたまにひまわり咲くんだよね。

田山 根耳に水だ。

梶田 大福。

沢井 口の中にひまわりの種を含んだまま死ぬからだね。

田山 根強い、食い意地。

洋子 時間だ。

沢井 誰が来るのあと。

洋子 とりあえず、何人だったかな。

内藤 やってくる。

内藤 なんだ、まだこんだけ？

梶田 けずりぶし。

沢井 しかし突然現れたな。

洋子 なんか疲れちゃったよ私も。

内藤 もう少しの辛抱だ。

田山 黙って聞いてりや文句はつか言ってんな。

内藤 なにその喋り方。

梶田 タピオカ。

沢井 牡蠣。

田山 金華ハム。

沢井 無理やりね。

内藤 ねえしりとりはいいからさ、椅子並べようか。

梶田 カモ。

洋子 もお誰か代わってくんないかなあ。

内藤 あんた以外出来んて、椅子はよ。

沢井 よし、じゃあやるか。

洋子 代わつてよ誰か、学級委員。

田山・梶田 あ。

洋子 …学級委員と、代わろうよ。

内藤 洋子はだつて、頑張つてると思うよ。

梶田 よこそか海軍かれーえ。

洋子 え…？

内藤 え、まさかこれだけって事はないよね？

梶田 ねこまんま。

洋子 まだ部活の人とか居るから…。

梶田 らつきよう。

内藤 嘘でもいいからなんか出さんとね。

沢井 ねえ嘘はダメじゃない？

内藤 幾つか考えてある？

梶田 ルイボステイー。

洋子 いや、みんなで考えるんでしょ？みんなで考えるんだと思ってる私。

梶田 白みそ。

内藤 そうだけど、そうそう、みんなで考えるんだ。

洋子 だよ、びっくりした。

浜野と松本 やってくる。

浜野は運動用のジャージを着ている。

浜野 たいま戻りました。

松本 台風来てるって。

内藤 天気良いよ？

松本 予報出てる。

沢井 テント大丈夫かな？

田山 なんの？

梶田 野菜。

沢井 なんのって運動会の。

田山 ノーノー、体育祭。

沢井 今、体育祭って言ってない？

田山 言ってない。

浜野 今すぐって事はないと思うよ。

松本 夜かな？

内藤 なんか言ってた、先生？

洋子 言ってない。

浜野 いいや、早くやろう。

梶田 馬。

浜野 また戻らないといけないんだよね、大会近いんで。

沢井 出た、自慢、自慢だ。

浜野 黙れ。

内藤 連絡回したのは、この人数？

洋子 うんと、あと、

和田、やってきて、洋子と対面する。

和田 (鼻をすりながら) とりあえず、クラス全員で話合っても決まらないので、少数で、今すぐ決めてください。

洋子 今から、ですか？

和田 勘弁してよね、こんな、文化祭の出し物なんかさ、他のクラスは一瞬で決まるんだからさ、

洋子 さすがですね…。

和田 ねえ、

洋子 ええ…。

和田 え？

洋子 えっと…。

和田 とにかくもついいや、足立。梶田。沢井。田山。内藤。浜野。松本。矢野。楽山。和田。

はい、このメンバーで。

洋子 でも、

和田 もう時間無いのよ、あなたたち子供じゃないんだからさ、皆で集まるとなんですぐ何かしら遊び出すの？お願いしますよ。

洋子 (皆の方を向き直り) よろしくお願いします。

浜野 すこい、五十音順で選んだってこと？

洋子 というか、あかさたなはまやらわ。

沢井 私達のクラスってホント珍しいよね？

浜野 ね、楽山が居ないと成立しなかったね？

田山 ね、ラコステでもいい。

沢井 いいけど、外人だから。

内藤 楽山君は、来るのかな？

松本 なんかさつき帰つてくの見ただけど…。

浜野 どうして声掛けんかったの？

松本 乗らん、気持ちか。

浜野 我が強い男はね、嫌われるよね。

田山 ね、口調が乱暴なんだよね。

梶田 ネクターあ。

洋子 あのお、じゃあすみませんが、もう、始めたいと思っんで、

内藤 でもまだみんな来てないよ？

梶田 吉野家。

沢井 矢野さんはさすがに来ないだろうなあ。

梶田 アーモンド。

内藤 どうして矢野さんを加えたんだろ、先生。

浜野 いやだからそれは、五十音順で適当に選んでるから。

梶田 ラザニア。

洋子 あのお、ほんと、もう決めんといかんもんで、私もこの後、生徒会に呼ばれて、そこ

で伝えんといかんもんで、

内藤 ですよね、やりましょう。

浜野 うん、やろう、私もまた戻らないといけないんで、

沢井 出た。

浜野 大会、近いんで。

内藤 で、この椅子は…？

洋子 わ…、

和田 輪にする？輪。

皆 …。

和田 私、和田。先生と間違われるけど和田だよ？和田だよ。

洋子 輪にしよう。

浜野 うん、そうしよう。

田山 腕が鳴るぜ。

松本 全部？

浜野 ぶつとばすよ、人数分で。

内藤 でもさ、ホント良くないよね、先生泣かせたら。

梶田 落花生。

沢井 いや、あそこは洋子が答えんといかんかったでしょ。

洋子 良く言うよ、あれは皆に聞いてたんでしょ？皆に聞いたって私、

梶田 シウマイ。

内藤 いや皆に聞いてたよ？

洋子 よね？ほれぬ。

内藤 皆に聞いたってたけど、皆に聞くととき、また誰かが答えると思つて結局誰も答えんもんで

いかなのたわ。

洋子 わからん、何言つとんのか全然わからんよ？

沢井 洋子だつて皆のうちのひとりじゃない。だから皆に聞くって事は、洋子に聞くって事じ

ゃない？

洋子 いや全然わからんぞ？

浜野 でもあれは先生もズルいと思うよ、明らかに洋子に言わせようとしてたもんで。

沢井 でしょお、だで言つとんだがね。

洋子 「ねえ、みんなどうするの？」って、私に、こつやつて見ながら「みんなどうするの？」

って、これ私に聞かれとる？「お前どうするの？」だったら「私か…」って思うけど、み

んながどうしたいのかはわからんもんで黙つとつただけど…。

梶田 ドーナツ。

浜野 つまり、あそこで「お前」って洋子に限定した言い方しちゃうと、洋子が決める事にな

っちゃうからだよ。

沢井 洋子が決めてくれていいんだよ？

洋子 良くないよ、それは良くない。

和田 椅子に座ろうよ。よ、よ、よ、

皆 よつこらしよつと。

皆 座る。

松本 とめたんだね、下校の音楽。

和田 クレーム来ちゃったんだ。

浜野 誰から？

梶田 ライチ。

内藤 近くに住んでる人でしょどうせ？

和田 生徒。

田山 とんでもねえ奴がいるんだな。

浜野 なにそれ。

和田 連名で。

沢井 でも良いつて言ってる人も居るのにね。

内藤 ね、一部の意見だけ聞いて中止にするなんてひどい。

和田 言いなりだから、

梶田 ラ王。

和田 うるさいつて、勉強してる生徒も居るんだからつてよ。

田山 世も末だな。

洋子 なあ、話し合いを始めたのだよ。

浜野 よし、やろう。

内藤 うん、そうだね、やろう。

皆 うんうん、やろう。

洋子 うん、どうしようね、なんでもいいんだけど…、どうしようかな？

浜野 なんか、フルーツバスケットでもしそつたよね？

皆 ね。

梶田 ネギま。

沢井 周りのクラスは何やるか聞いた？

洋子 確か、なんだつたかな、

内藤 なんか、D組はパンケーキつて言つてた。

浜野 ただのホットケーキだよそれ。

田山 練習しないと、そうなりがちだな、

松本 なんだつたかな、F組は占いだつたかな、

他 なにそれ！行きたい！

浜野 いやそれも結局本見ながらやるんだよ。

田山 よくあるパターンだね。

洋子 ねえ、あの、なんでもいいんだけど、みんながやりたいと思えば、どう？

沢井 うん、全然なんでもいいよね。どう？

他 うん、なんでもいいよ。なんでもいいな。

洋子 なんか、ある？

他 …。

洋子 あの、言い出しつpegが責任者とか、そういう事にはならないんで、皆でやるから、…な

んか、あれば…。

皆 …。

梶田 バターあ。

浜野 あの、とりあえずフルーツバスケットでもやる？

沢井 ルール憶えてるかな。

田山 なに言つてんの、時間無いんだぜ。

洋子 全然、ホントなんでもいいんだけど…。

浜野 どちら焼き好きな人？

和田、立つ。

和田 とんだ、お調子者でした…(と云つて座る)。

洋子 例えば、でいいんだけど、

皆 ど、ど、(ぶつぶつ)。

洋子 どうしよう…？

田山 うなぎ好きな人…？

浜野、松本、田山、和田、内藤、立つ。

浜野 とめよう、もうとめよう。

内藤 うん、もうとめよう。

田山 うんうん、とめないかんね。

立った人、場所を入れ代わり、座る。

洋子 ねえ、あのお、
和田 おでん好きな人？

和田、浜野、田山、内藤、梶田、立つ。

浜野 と、とまらんね、

洋子 ねえ、

沢井 え、さつきから全部立ってない？

和田 い、いいえ…。

松本 え、じゃあ、焼肉好きな人？

全真立つ。

洋子 とめて、誰か。

浜野 関係なく動いちゃうんだよね。

洋子 ねえ、フールツバスケットになってるからさ、

内藤 さすがにもう、いかんね、

浜野 ね、いかんね、

皆 ね、ね、ね、

洋子 ねえ、あの、なんか意見ある人は言って欲しいのよ、

梶田 よし、言うわ。

洋子 わ、お願い！

梶田 犬好きな人！

全真立つ。

洋子 という事じゃないんだよ、フールツバスケットになっちゃうから、ねえ、

沢井 え、これっておかしくない？椅子が全真分あつたらいかんのじゃない？

浜野 いや、その通りだ。

沢井 だよね。

洋子 ねえ、フールツバスケットをより良くしていく意見じゃなくてさ、文化祭の出し物を決めたんだわ。

内藤 わかる、そうだよ、そうだ。

浜野 だからもう決めよう、決めますよ。

沢井 よし、やろう。

皆 うんうん、やろう。

洋子 うんと、じゃあ、意見をください。なんでもいいので、なんでも。

和田 もっと、気楽に言えるといいかも…。

内藤 もっとね、うん、もっと、こう…。

浜野 うん、なんでこう、喋りにくいんだらうね…？

梶田 ねぎぬた。

和田 立ってみようか？

沢井 限りなくいいね、動かんとね、

皆 立つ。

内藤 ね、考えてる時こそね、

田山 ね、者語まっちゃうもんね、

松本 ね、いいね、ね、

皆 ね、いいね、ね、

輪になって上履きを隣の人にパスして回すゲームを始める。

矢野、廊下に現れて、教室を覗き込んでいる。

洋子 (靴を回収して) ねえ、これは何…？

梶田 煮豚。

浜野 たぶん、向かい合ってるからだよ、

田山 良く言った。

沢井 例えば、椅子を逆に向けちゃうとか？

浜野 完璧じゃない？

内藤 いやいやそれなら絶対遊ばんわ

沢井 輪で向かい合っていると遊んじやうからね。

浜野 ね、いいね、ね、

田山 ね、いいね、ね、

皆 ね、いいね、ね、

今度は背面で同じゲームをやる。

洋子 ねえ、なんですぐこんな風になるの私達…。

浜野 ちゃんとせんといかんわ。

田山 わ、これもまたいかんよ、椅子取りゲーム出来ちゃうから。

梶田 ラッキー。

洋子 いやラッキーじゃなくて、

沢井 ていうかだから、椅子が多すぎるんだよ。

浜野 よし、じゃあ外そう。

洋子 うん、そうじゃなくてさ。

梶田 畢華。

和田 もついつそ、一列にするのはどう？

内藤 うんいいね、会議って言うとき円になりがちだけど、

浜野 どうしてもフルーツバスケットになっちゃうからね。

他 ね、ね。

洋子 ね、じゃあ私から…。

梶田 で、私は…。

沢井 で、…。

田山 で、…。

内藤 で、…。

浜野 で、…。

松本 で、…。

矢野 じゃあ私は…。

和田 や、矢野さん！いつのまに？！

矢野 …ごめん、遅くなって…、妹、迎えに行かないといけなくて…、

洋子 ああ、大丈夫でした？

矢野 あ、うん、もう、大丈夫、弟たちに任せて来たから…。

洋子 ああ…、

矢野 あ、どうなったの、話し合い？

洋子 あ、まだ、全然…。

矢野 ああ、そうなんだ。

浜野 ずっと、しりとりやってました…、

矢野 ああ、しりとり…、あ、しりとりだったんだ、あれ…、

田山 なんか、ね、続けちゃったね…。

梶田 ね…。

矢野 あ、ごめん、止めちゃって、じゃあ、続き、やる？

洋子 あ、いや、もう、充分…、

矢野 ああ…、

洋子 矢野さん、何か、やりたい事ありますか？

矢野 そうね…。

洋子 なんでもいいんですけど、矢野さんのやりたい事。

矢野 あの…、敬語、やめてほしいなあ…、なんて、

洋子 ああ…、

矢野 一応、同級生、同じクラスなんで、

洋子 ですよ…、

矢野 ああ、

洋子 あ…、

矢野 私、来て良かったのかな…、

沢井 そりゃあ、来てくれた方が…、ねえ？

内藤 うん、いろんな意見があった方が、ええ、

矢野 あんまり、気遣わないで…、あ、ごめん、しりとり止めちゃって、

洋子 あ、いや、もともと、そんなにやりたい訳じゃなかったし、

他 うん、

矢野 え、でもなんかすごい楽しそうにやっていたから、

洋子 いやいや、

他 うんうん。

矢野 …帰ろうか…？

和田 あ、じゃあもう一回、やる？

沢井 あ、そうしよつか、

浜野 うん、やろうよ、

他 やろうやろう。

梶田 梅おこわ。

矢野 和田さんはいいよね…、

和田 え？なにが？

矢野 同じ留年組なのに、皆と打ち解けるのが上手いから…、

和田 え？

矢野 私は、どうしてもひとに気を遣わせちゃう人だから…。

和田 あ、私、留年してない…。

矢野 え…？

和田 うん…。

矢野 …。

和田 あ、でも、よく、先生に間違われるから。

矢野 ライチ。

梶田 あ、それ言いました。

矢野 …。

洋子 いや、でもそれは、矢野さん分らないんだからさ…、

浜野 そうだよ、もう何回言っても良い事にしようよ、

矢野 いいよ、そんな事したら、面白くなくなっちゃうから、しりとり…。

内藤 今まで出たのは無しにて、もう一回最初からやればいいんじゃない？

浜野 ああ、いいね、それだ、

沢井 じゃあ、誰から…？(梶田を見る)

梶田 …それは洋子からでしょう、せっかく一列にしたんだから、

洋子 ランドセル。

梶田 ルッコラ。

沢井 落書き。

田山 金星。

内藤 医者。

浜野 ヤギ。

松本 銀行。

矢野 …なんか、あれ、こんな感じだったっけ？

沢井 え？

矢野 ああ、いや、ごめん、なんだっけ？

松本 あ、銀行。

矢野 うさぎ。

和田 行列。

洋子 机。

梶田 えのき。

沢井 キノコ。

田山 小鳥。

内藤 リュックサック。

浜野 車。

松本 まんが。

矢野 あれ？…こんな感じだった？もつとこう、自然と話してるみたいなの…、自然に話してるのに、それがしりとりになっちゃうてるみたいなの、そんな感じじゃなかった？

沢井 ですね…、

矢野 ね、あれが、いいじゃん、あ、ごめんね、止めちゃったくせに、

沢井 あ、いやいや、そんな…、

矢野 …。

内藤 なんかも、じゃあどうする？あの、決める？文化祭…。

洋子 いや、そう、そうなのよ、もう決めなんといかんよ、

梶田 よもぎ餅。

浜野 ちゃっちゃと決めちゃおうかな、

洋子 なんかもあるかな？

梶田 なめこそば。

沢井 化け屋敷がよくない？

洋子 いいじゃん！いいよね、化け屋敷、いい！

他 いいね、いいよね、化け屋敷。

梶田 キジ。

洋子 じゃあ化け屋敷にするね。わあ決まった、すごい。

他 いやすごいね、すごい。

矢野 ……。

洋子 いや、さつきまで全然決まらなかったんですよ、矢野さんのおかげで決まりました。

矢野 …あのさ、

洋子 はい…。

矢野 化け屋敷って、お化け屋敷のことだよ？

沢井 …はい。

矢野 うん…。あ、今ので決定？

洋子 あ、お化け屋敷でいいと思うんだけど、他に何か意見があれば、それで、生徒会には

報告しようと思ってるんですけど、

浜野 どんなお化け屋敷になるか、楽しみだね。

田山 ね、頑張らんといかんね。

沢井 ね、怖い作りたいたいから、ね。

内藤 ね、準備大変そうだよ、ね。

浜野 ね、じゃあもう、帰る？帰ろうか、ね、

田山 ね、そうだね、

矢野 ねえ、

洋子 …はい？

矢野 さつきから「ね」ばかりで…、いや、語尾に「ね」を付いたら、「ねえ」で始めればい

いんだし、そりゃあ続くよなあって、気がして…。あ、ごめん、えっと、お化け屋敷なん

だけど…、私、ちよっと靈感強くて…、

洋子 ……。

沢井 撤回します、お化け屋敷。

浜野 気持ち悪いよね、お化け屋敷は気持ち悪い。

田山 いやほんと、遊び半分で手を出すと、祟りとか怖いから。

梶田 ライム。

矢野 とりあえずさ、それもちよっと、やめようか、

梶田 え？

矢野 なんか、ヘルプで出してるみたいだからさ、

梶田 …最高ですね、ですな。

内藤 難易度が上がりますな。

田山 なんか、面白くなってきましたな。

洋子 なんか、じゃあ他にある？あるかな。

和田 なんかさ、そう言えば、どっかのクラスがお化け屋敷だった気がするな。

浜野 なんてこと、じゃあそれはダメだな。

松本 なんかそれ、隣のクラスだった気がするな。

田山 なんだ、じゃあ良かったな。

矢野 「な」ばかりだな。

他 ……。

矢野 「な」で終わると、次はたいてい「なんか」って始まつちゃうね聞いてると…、なんか、

それはつまらないよね。あ、「なんか」って、やっぱり使い勝手がいいんだね。なんか、だ

からもうちよっと、縛りがあるといいと思うよ。…ごめんね、どうしても、そういう、変

なこと気になっちゃうからダメなんだよね私…、ああ、ごめんやっぱ帰るわ、私は、こっ

うところ居ちゃいけない人間なの、わかってたんだけど、呼ばれたから来たただだか

ら

矢野、去ろうとする。

洋子 ら、乐山君だって！まだ来てないけど、居ちゃいけない人間なんて、このクラスには、

居ないから！みんな、良い文化祭にしようよ。

矢野 ……。

和田 よし、ほら、座ってよ！

内藤 よく考えて、決めよう、みんな。

沢井 ですね、何かある、アイデア。

皆 考え込む。

洋子 …あのね、いつもこうやって、うやむやになっちゃうから私達 延長を、お願いしてもらってるのね。

皆 …。

洋子 簡単には、決められないかもしれないけど、クラスの中で、決定してないのは、このA組だけなの。最後まで決められなかったことを、真摯に受け止めて、素晴らしい、成功を、創出しよう。頼むから、力を合わせて、作ろまい。手と手を合わせて、ともにみんな、成し遂げたいのよ。二年生からも言われてる、「温いんじゃないですか先輩」って。寝込みましたよ。飲みましたよ。ハーブティーを。昼間から。普段は、平均的に、ホットミルクです。ママが、ミルクを、六つも買って来るから、飯の時には、「もおなんでホットミルクなのお」って文句言いながらも、やっぱ、ゆう通りに、良く噛んで、ラッパ飲みするよ。料理がなんであれ、…る、ルーマニア料理だろうと、冷静に、露骨に嫌な顔をせずにも心では、わをーん。…以上です。

浜野 …すごい、五十音順になつてた。

洋子 例えは、そういうルールにしちゃうとかね、とか、

内藤 かなり、難しいと思うよ…。

矢野 よく、わかった、それをしりとりでやると言っのね。

洋子 粘り強く…え、しりとりで？

矢野 でしょ？

洋子 よし…、続けてみる。

矢野 ルールが、そういう事ならば(と座る)。

田山 バカな、五十音順でしりとりなんて、そんなの出来る訳ないわ。

和田 輪をかけて、スリリング…。

松本 偶然だったの、今？

洋子 まさか…、途中から気づいて、

梶田 天才。

浜野 いいよ、やろう、やってみよう！

田山 嘘でしょ？

沢井 よし、やろう、誰から行く？「あ」。

和田 アウシユビッツで。

田山 電話したら。

梶田 来週のことだった。

洋子 あの、ごめん…、五十音順になつてない…。

矢野 あと、文章がよくわからないから、文脈気をつけようか。

和田 愛知県警察の人居ない？

田山 いや、私も探していたんですよ、そうそう。

梶田 嘘をついていますねえ。

田山 え、なんだその顔。

梶田 おっと、気に障りましたか。

矢野 それは誰？劇が始まったの？

浜野 いきなり愛知県警察が、厳しいんだよ…。

和田 ああ…。

松本 (グランドを見て) あ、あの…。

内藤 ン、始まつてる？ん？

松本 あ、あの、イイ…。

浜野 いや、何が、イイのでしょう？

松本 運動会の練習をしている、井上。

田山 え、いや、井上と言われても、誰か知らんからのお。

沢井 おい、お前は、武士か。

松本 かつこいいから、好き。

内藤 君の言っている人が誰かわからんのよ、生憎

松本 来るよ、ほら、こつちに来る、ひとりだけ。

田山 軽快に、やってくる、あの子？

後方に男子生徒がやってくる。

松本 この前、手紙を渡そうとしたのさ。

梶田 さすが、可愛いし。

松本 しかし、私は面識が無いので、彼のクラスの子に頼んだんです。

田山 凄いで。

矢野 あ、それはちよつとやめとこうか。「せ」は「ぜ」でもいいとか、そういうの無しで、シビアに行こう。

浜野 (田山を見て) すこい、冷や汗。

松本 せっかく書いた手紙だったのに、それがこうなって(手紙を取り出す)：ほっそ(細い棒状になっている)。

洋子 それは、なんでそうなった？

松本 頼んだ子から、また別の子に渡り、さらに何人かの手に渡って、その間にカチコチ。

沢井 ちゃんと渡らなかつたの？ 喝だ、喝。

松本 強いよ、B組の結束力って。

内藤 手紙も渡せないってこと？

松本 とにかくガードが固くてな。

田山 なんてことだに。

松本 (手紙を見ながら) 憎しみを、感じざるを得ぬ。

矢野、ホイッスルを吹く。

矢野 やつぱり、武士みたいになりがちだね。あと、さつきのは方言ですか？

田山 あ、はい…。

矢野 ちよつと、どこの方言か判別しにくいので、イエローにしとくね。続きを。「ぬ」から

浜野 抜きん出てる、確かにその辺の男子に比べれば、抜きん出てるね。

松本 ね、あんなにかっこよくて運動神経も良いからさ、私は近づけないんだろうな…。(新しい手紙を取り出す)、井上君はまさにB組の宝物。

和田 望み薄くてもまた書いて来たんだ、私すこい受けてるよ、衝撃波。

洋子 走って行く、ひっひっひ、

全責、走って行くのを目で追う。

男子生徒、どこかへ行く。

梶田 ひっひっひ、ふっふっふ、

沢井 ふっふ

矢野、ホイッスル。

矢野 ダメでしょそれは。もう一回「は」から、

洋子 端っこにいる先生の、頭皮。

梶田 ひどいな、あれは、先生かどうか、疑問符。

洋子 ふーん、へ？

梶田 へ？ だってそうでしょう先生あそこで歩いてる、徒歩。

洋子 ほんた、え、じゃああのおもつきし頭皮はかりの奴は、なんでさつきからずと座つ

たまま。

和田 待つて、私良い事考えた、B組の女子の井上君包囲網をかくぐる企み。

田山 皆に分かるように頼む。

和田 向こうの頭皮の奴を私達が応援するから、女子達の気が井上君から逸れた隙に走りこめ。

松本 メモ。

和田 もたもたすんな、今すぐやれや。

松本 やれるかな、私にぎゅ、ぎゅ(手を握り締める)。

和田 勇気を出して、一気に走り込むんだよ。

松本 よし、やったら！(「やったら」の語尾変化だけど伸ばしすぎると「あ」になるから注意)

洋子 楽観的に言ってるけど、どうやって応援するのか皆お分かり？

沢井 理解してる。

浜野 類推するに、運動会の、アレ。

洋子 練習なしで出来る？ 歌詞を覚えるんだよね、あの色。

内藤 ろくでもない歌詞になりそうだわ。

和田 わ、頭皮が立ち上がる、行くよ、スリーツワン、ごー！

ふれーふれー頭皮 ふれーふれー頭皮

ふー(ごー)ふー

あたまはかがやく、たいようのように

もえあがるきぼう カいっぱい頑張ろう

頭皮頭皮頭皮 ぐーぐーぐー

頭皮頭皮頭皮 ぐーぐーぐー

燃えろよ 燃えろ 頭皮

歌い終えた途端 松本、廊下に走り出る。

男子生徒、頭に水泳帽を被って戻ってくる。

松本はその男子生徒には目もくれず走り去る。

楽山 …。

浜野 (グラウンドを見て) あれ？ちよつとまずいんじゃない？

洋子 どうした？

浜野 あれ ほら、あれ。

矢野 え、もうやめちゃおう？…やめるなら私…(立ち上がる)。

洋子 い、一体なんででしょう？

浜野 うんと、見て、前。

和田 え、おお…。

沢井 おい、頭皮がこつち見てないか。

梶田 か、かなりの、鼻息。

浜野 きつと喜んでる、えらく。

和田 くそ、あつちの女子は全然包囲解いたらんやんけ。

浜野 けど、行っちゃったね、うちの子。

和田 この作戦は、失敗だわさ。

内藤 さつきと別人のようだし…。

和田 しょうがない、一旦トイレに行きます。

他(矢野以外) すぐに引き返せ。

和田 せつかくなら皆もいっそ。

田山 そうしよう、もう疲れた。

浜野 助け求めているよ、あつち。

洋子 ちよつと私も行ってくる、生徒会に挨拶。

浜野 捕まってるって…。

洋子 手が空いたら助けに行こう、みんなと。

和田 とても、B組の女子にはかないそうにないな。

浜野 なんてこと、あの子噛みついてる、腕に。

梶田 逃げればいいのに、まるで子犬。

和田 抜け出せないのよ、あの人数じゃあね。

田山 ねえ、トイレ行かないの？

内藤 呑気だなあ、調べてあげようか？脳波。

田山 早く行かないとこつち来るかもよ、あの頭皮。

沢井 ひとりで行きなよ、それよりあの芝生…。

田山 二人以上で行きたいんだわ、トイレへ…。

矢野 うん、今は、オッケーにしとく「へ」だからね。

田山 へえ、ほ(つと)。

沢井 ほら…、芝生がさ、ミステリーサークルみたいに倒れて、そのまんま…。

浜野 待って、え…？それって、え、ほら、あの…、無気味。

沢井 見てみて、姿が段々、霞む…。

浜野 向こうの景色が、透けてって…、え、ウン？！おかしくなっちゃった？私の目。

沢井 目の錯覚じゃないよねどうやらあれも…。

浜野 もつ、ちよつと、あれよ、嫌…。

内藤 やつぱり、いかんかったんじゃない？抑捺…。

沢井 ゆうべのあれは、隕石じゃなかったんだ、そつだよ…。

浜野 よくわからん、私ら…。

沢井 落下して、空から落下しており…。

田山 理解不能で困ってる…。

浜野 類似の話って、どれ？

沢井 例のほら、いろいろ…。

内藤 ロズウエルの、逸話…。

沢井 私が見たのも、事件…。

洋子と矢野以外、逃げて行く。

洋子 え？ねえ、どこ行くの？帰って来てよ。またすぐ再開するからね！

矢野 …ごめんね、なんか、

洋子 いえ、謝る事なんて、なにも…。

矢野 私居ると、絶対ああいう空気になるからさ、来るの止めようと思ってたんだけど…

洋子 え、そんな全然、来てくださいよ。

矢野 なんて、私に声掛けたの？

洋子 先生が。

矢野 …。

洋子 きつと、みんなにとつていい文化祭になったらいいと思って、みんなってというのは、矢

野さんも入ってるから、だから、声掛けたんだと思いますよ。

矢野 すぐ敬語…。

洋子 ごめん…。

矢野 しりとりだったら終わりだね。

洋子 え？

矢野 ごめん。

洋子 ああ。

矢野 まだ続けるんでしょう話し合い。

洋子 はい、あ、うん、今日のうちに決めないといけないんで。

矢野 じゃあ、もつと縛りがあつてもいいかもしれないね。

洋子 え？

矢野 五十音順にしりとりして、次。

洋子 いや、これ以上は、もう喋れなくなっちゃうんじゃないかな…。

矢野 そうかな？

洋子 なかなか、今でも結構、窮屈だから…。

矢野 何がいいかなあ。

洋子 矢野さん、それよりあの、文化祭の…。

矢野 ああ、うん、そうだよね…。

洋子、廊下に立っている男子生徒に気付く。

洋子 楽山君！

男子生徒（楽山） わりい、遅くなって…。

洋子 あ、ううん。

楽山 あいつさ、矢野、学校辞めんだよ。

洋子 え、いつ？

楽山 もうすぐ。

洋子 もうすぐって…。

楽山 だからよ、文化祭には居ないんだよ。

洋子 …。

楽山 でもすげえ喜んでると思うよ、最後に仲間に加えて貰って、いい思い出作ってやってくれよ。

楽山 帰ろうとする。

洋子 え、帰るの？

楽山 どうせ、俺が居たつてなんの力にもならねえから。

洋子 でも楽山君も、みんなのうちの一人だよ？

楽山 …俺は、なんでもいいよ。

楽山、去る。

廊下。

沢井、戻って来て。

沢井 ねえ、さっきのあれ、なんだと思う？

洋子 さっきの？

沢井 頭皮の…。

洋子 ああ、なんか良くわかんなかったけど、

沢井 だからさ、居るんだよ、宇宙人が。道理で頭ツルツルだと思った…。

矢野、去る。

洋子 マジでどうでもええわ。

沢井 何その反応…

洋子 幽霊とかUFOとか興味ないもん。

沢井 興味なくてもそれなりの反応つてあるでしょ。

洋子 それより文化祭、どうしよう…。

沢井 だからさ、宇宙船みたいにするのはどうか？

洋子 何が？

沢井 教室内で暗にしてさ、窓を作つて、そこから覗くと宇宙空間が広がつて、なんかプラ

ネタリウムみたいになつてるの。

洋子 え？

沢井 お化け屋敷が、隣のクラスと被つてるならさ、

洋子 ああ、文化祭の？

沢井 そうそう。

洋子 え、なにそれ！めっちゃいいじゃん！

沢井 ね、そしたらさつきの頭皮、また来てくれるかもしれん。

洋子 それにしようよ、もうそれにしよう！

沢井 じゃあ提案してみて？

洋子 え、自分で言わないの？

沢井 だつて私が言う角が立つから。

洋子 なんの？

沢井 皆なんも言わんしよ、今さら提案するとなんで今まで言わんかつたつてなるじゃん。い

や、私はなんでもいいんだよ、でも何もなければ、

洋子 わかつた、じゃあ私から言う！

沢井 お願い。

洋子 ああ、良かった…、実はさ、今日中に出さなかつたら、A組だけ出し物無しになるとこ

ろだつたんだわ。

沢井 出し物無しだと、文化祭の間、どうなるの？

洋子 ゴミ拾いと、他のクラスのお手伝い。

沢井 最悪じゃん。

洋子 でしょ、だから良かった、それで言う、なんだっけ宇宙船？

沢井 うん。

洋子 ありがとう！

沢井、去る。

洋子、ほっと溜息をついていると、

内藤がやってきて、

内藤 大丈夫？

洋子 あ、うん！もうだいぶ平気。

内藤 ねえ、今日中に何か出さなかつたら、A組だけ出し物無しになるってホント？

洋子 ああ、うん、実はそうなんだよね…。

内藤 そうなんだ…。

洋子 だから焦つとつたんだけど、

内藤 あのさ、私クレープ好きなんだよね。

洋子 ああ、そうなんだ。

内藤 家でもたまにやるんだわ、ホットプレートで。

洋子 へえ、ホットプレートでね。

内藤 丸くするのはなかなか技術が要るんだけど、コテを使って四角にするのは結構簡単な

だわ。

洋子 ふーん。

内藤 そこに生クリームとか、いちごとか乗せて、クルクルつて、棒状に。

洋子 なるほどね。

内藤 それにしない？

洋子 何が？

内藤 文化祭の出し物。

洋子 ……え？

内藤 それなら誰でもやれるし、なんなら私店長やつてもいいよ。

洋子 ああ…。

内藤 だつて洋子大変そうだし、私やるよ。

洋子 え、あ、でも、

内藤 そうなんだよね、私の口からクレープとか言っても似合わないしき、洋子から言ってるんだよね、

洋子 え、いやいや、そんな事はないと思うけど。

内藤 だって今さらなんか提案すると角が立つし、いや私はなんでもいいんだよ、でも何もなければならぬ。

洋子 ああ、

内藤 洋子が言ったら、そしたらあと、私仕切るから、任せといて。

洋子 …あ、そう。

内藤 がんばろう！文化祭。

洋子 うん…。

内藤 去る。

逆方向から浜野 やってきて、

浜野 よ。

洋子 よお…。

浜野 大丈夫？疲れてるね。

洋子 ああ、うん、まあ…。

浜野 私さ、そろそろ戻らんといかんのだわ。

洋子 ああ、部活中だもんね。

浜野 うん、大会近いんで。

洋子 わかった、とりあえず、時間になったら、いいよ。

浜野 ごめんね。

洋子 ううん。

浜野 カジノがいいと思うんだよね。

洋子 ん？

浜野 カジノ、真ん中に大きなテーブル置いて、そこはルーレットになってるの。周りはカードゲームの小さいテーブルが幾つか置いてあって、ポーカーとかブラックジャックとか、

ディーラーがいて。

洋子 …。

浜野 で、ここの専用のチップを作って、でもチップって言ってもコインだと用意するのに経費

が掛かるから全部紙にして、最初にこのチップを購入してもらって、それをゲームで増やして景品を用意してくの。景品は、クラスのみんなから募ってもいいし、そうだ、ほかのクラスと提携して、そのチップを使えるようにしたら相乗効果になると思うんだけど、どうかな？

洋子 …すごいね。

浜野 でしょ。あ、カードゲームばかりじゃなくて、コンピュータゲームもあって、そのうちの一個のコーナーには大きなモニター持ち込んで、そこで私と対戦、勝ったら、すーいの、倍率が。だって私この学校で一番強いからね、ストリートファイター。

洋子 ああ、さすがeスポーツ部…。

浜野 そうそう、だから私からは言いくいからさ、洋子から提案してよ。

洋子 …。

浜野 皆なんも言わんし、私が言ううとまた角が立つからさ。

洋子 ああ…。

浜野 だってあれなんですよ、今日中に出さなかったらA組だけ出し物無しになるところだったんでしょ？

洋子 うん…。

浜野 なら良かった、間に合ってる。

洋子 ジャージは必要なん…？

浜野 え？

洋子 ううん。

浜野 じゃあそういう事で、よろしく、これですぐ終わるよ。

洋子 はい…。

浜野 去る。

梶田 来る。

梶田 あのさあ

洋子 はい…。

梶田 カラオケ、したくない？

洋子 カラオケ…。

梶田 あ、文化祭の事ね。

洋子 分かってるよ…。

梶田 ステージ組んでさ、出来れば生演奏とかしたら、面白くない？

洋子 そう、ね。

梶田 それをさ、

洋子 わかった、私から提案すればいいんでしょ…。

梶田 そうそう、私から言っと、

洋子 角が立つからね…。

梶田 そうなのよ、さすが洋子、良くわかってる。

洋子 わかった。

梶田 あ、あれだよ、別にそこまでやりたいって訳じゃないんだよ、でも今日中に出さなかったら、うちらだけ、

洋子 そうなのよ。

梶田 じゃあ、お願いね。

洋子 はい…。

梶田、去る。

田山、来る。

田山 ねえねえ、

洋子 うんわかった、私から提案しとく…。

田山 え？

洋子 ああ、なに？

田山 あのさあ、演劇やろうよ。

洋子 文化祭の時は演劇部がなんかやってるでしょ。

田山 あんないじめや自分の内面を見つめて苦しむみたいな暗い題材じゃなくてさ、なんかどうでもいいやつやろうよ。

洋子 たとえば？

田山 ずっとしりとりやってるみたいな。

洋子 わかった、提案する…。

田山 ありがとう！

田山、去る。

洋子 今までで一番どうしようもないな…。

洋子、歩き出す。

和田、やって来るが、洋子は立ち止まらず、

和田 あ、ねえねえ、

洋子 文化祭のやつね、どうぞ。

和田 つきたての。

洋子 お餅ね、了解。

和田 え？

洋子 提案しとく私から…。

和田 あ、ありがとう。

和田、去る。

洋子、立ち止まり大きな溜息。

松本、服も髪もボロボロの恰好でやってきて。

洋子 あ、大丈夫…？

松本 …B組がお化け屋敷なら、こっちもお化け屋敷にしない？

洋子 え、二つ並んでお化け屋敷？それは、たぶん許可可下りないんじゃないかな、もう向こうが先に出してるし…。

松本 うちら別になんでもいいけどさ、絶対にB組より面白いのがいい。

洋子 …わかった。

松本 絶対だからね…。

教室

全員、再集合して、てんでんバラバラな場所に座る。
そこには楽山も居る。

洋子 では、文化祭の出し物に関する話し合いを、再開します…。実は、まさかこんなに掛かるとは思わなかったので、言い忘れていましたが、今日中に決まらなければ、我々A組は

文化祭に不参加という事になります…。

皆 えー？

洋子 …。

浜野 その場合、私達は当日どうなるの？

洋子 ゴミ拾いと、他のクラスのお手伝いになります。

皆 えー？

沢井 それはヤダよね。

浜野 うん、それだけは避けんといかん。

内藤 なんか決めよう。

田山 うん、決めよう。

浜野 なんでもいいからさ、誰かなんか、言おうよ。

梶田 うんうんそうだね、なんでもいいもんね。

田山 うん、なんでもいい。

皆 うんうん、なんでもいいよ。

洋子 …。

沢井 洋子は、例えば何か、ある？

洋子 え…？

沢井 なんか、あれば。

浜野 うん、そうだよね、なんか適当に言ってみたら？あれば。

内藤 うんうん、言ってみてよ、あれば。

梶田 そうだよ、言ってみて、あるよね。

洋子 …私からは、無いです。

他 え？

洋子 …誰か、あれば。

沢井 え、え、ちよつと待って、え、洋子？

洋子 はい…。

沢井 え、あるでしょ、ほら、

内藤 うん、無い訳ないじゃん、ほらほら、

洋子 あの、やりたい事、あるなら、是非、ご自分の口から。

他 …え？

矢野 じゃあ私から、いいかな。

他 え？

矢野 さっきの、五十首順のしりとりを、五七五で話そうよ。

浜野 いやいや…、もう、時間ないからさ、

沢井 そうだよ、そんな遊んでる場合じゃないし、

浜野 うん、

田山 疲れるしね、あれ、

他 そうそう。

浜野 もうちやつちやと決めて、終わりにしたいんだよねこの会議

内藤 そうだね、そうしよう。

田山 そうしようそうしよう。

矢野 …。

洋子 あのですね、私は特に、なんでもいい。

沢井 え？

浜野 は？

洋子 いやほんと、私はホント、ホントそう。

梶田 ねえ、洋子？どうしちゃった？

沢井 そうだよ、ほら、あるでしょほら。

楽山 おい！五七五で話そうって言ってんだろ？が矢野がよお！五十首順でよお！

浜野 なんてあなたに偉そうに言われんといかんの？

沢井 て言うかいつから居たの？

田山 私らちゃんと時間通りに集まったんだからね。

梶田 やんないよそんなのめんどくさい。

内藤 それよりも、もう決めないと。

矢野、静かに去ろうとする。

洋子 矢野さん！

楽山 矢野！

矢野 …。

楽山 おいお前ら、矢野はな…。

矢野 楽山君…、いいから。

楽山 …。

矢野 じゃあね皆、楽しい文化祭にしてね。

矢野、去る。

楽山 矢野！

楽山 追いかけて行く。

洋子 矢野さんね、学校辞めるんだって…。

他 え…？

洋子 だから、文化祭には、居ないんだって。

他 …。

松本 どうして居ない人を呼んだの、先生…。

洋子 なんてだろうね…。

和田 居なくなる矢野さんにも、一緒に作って貰おうと思ったんじゃないかな、文化祭…。

洋子 先生がそこまで考えてたかどうかはわかんないけど…。

浜野 いや、確かに不自然だと思ったんだよね、「あかさなはまやらわ」で選ぶのって。

田山 どうしよう…、矢野さん帰っちゃったよ。

他 うん…。

洋子 まだ近くに居るかも…。

皆 急いで廊下に出る。

が、すぐ戻って来る。

後から矢野と楽山付いて来る。

洋子 凄く近くに居た…。

沢井 居たね…。

皆 着席する。

矢野 じゃあ皆、すみませんが、また「あ」から。

浜野 ああそうだ、洋子が何か、言うといい。

洋子 いやだから、私はなにも、ないよもつ。

梶田 嘘だよ、ホントの一つ、言い給え。

沢井 えつとさあ、いいのがあると、思うのお。

楽山 なんだよそれは？ぶざけてんのか！

矢野 (制して) いいから、続けて。

楽山 「お」から。

浜野 おかしいな、洋子は何も、ないものか。

洋子 各自がさ、自分の口で、話すべき。

和田 決めよまい、洋子が言うと、きつと聞く。

田山 苦しくて、ああ苦しくて、えのきだけ。

楽山 何言っただよお前はよお！

梶田 結局さ、なんかあるでしょ、ねえ洋子。

内藤 この空気、払拭せねば、ならんのか。

洋子 さつきから、洋子洋子と、うるせえし。

浜野 知ってるよ、ホントはあるの、聞いたつす。

洋子 素晴らしい、アイデアきつと、ありまっせ。

皆 黙る。

楽山 何黙ってたんだよ、「せ」だよ！「せ」！

松本 うるせえな、お前も七五調で話せよ。

楽山 俺は別にいいんだよ。

矢野 楽山君…。

楽山 せつかくだ、俺から何か、…言いまつそ。

松本 何言ってるんだよ！

他 そうだそうだ！

楽山 うるせえなあ！お前らがなんにも言わねえからだろうがよ…！

矢野 いいよ、「そ」から。

沢井 そう言えば、昨日の夜空、好きでした。

洋子 たちまちに、決まるよそれで、言い放ち。

沢井 …。

梶田 近頃さ、踊りたいのよ、歌いつつ。

浜野 強いから、日々の部活で、鍛えてて。

田山 手短に、みんな一緒に、演じると。

洋子 とりあえず、はつきり何か、言うんだな。

松本 何もかも、B組女子に、勝つために。

洋子 煮え切らぬ、これでは何も、伝わらぬ。

和田 ぬくぬくと、つきたてお餅、いいわね。

洋子 ねえそれは、つきたてお餅の、お店なの？

和田 残り物、何もなければ、はっはっは。

洋子 はいどうぞ、他にもあれば、祭りの日。

皆…。

楽山 「ひ」だぞ「ひ」？

内藤 陽の光、甘いものでも、いかがでふ。

楽山 おいこの言葉なんだよそれはよお！

矢野 いいから。

楽山 どういって「ひ」も…。

矢野 「ひ」。

沢井 ふ、二人でさ、話してたよね…、あれは八戸。

楽山 嘘はダメだぞ？字余りもなんとかしろ？五七五って言うてんだらうがよ、矢野がよお！

浜野 変だなあ、私も確か、立候補。

洋子 ほいじゃあさ、一人一人に、リラックマ。

楽山 はあ？

沢井 待つてよね、皆もあるの？現実味。

内藤 みかんをね、クレープ屋さんでおクリーム。

田山 無茶な事、めんどくさい事、それはダメ。

内藤 めっちゃんこ、それはおいしい、さつまいも。

梶田 もういいや、私はやりたい、カラオケ屋。

洋子 やりますか？カラオケ屋でも、いいでつしゅ。

浜野 ゆうてもさ、そんなの別に、普通だよ。

田山 よしやるか、皆で演劇、ららランド…ら。

沢井 らが多い、演劇なんて、それは無理。

内藤 りんごもね、バナナもチョコも、入ってる。

浜野 ルーレット、誰もが楽しく、うらやまれ。

田山 練習を、すればいいのよ、ららランロ。

梶田 ロックでも、ポップスでもね、楽しいわ。

皆 疲れて一息つく。

矢野 わかったわ、このまま皆、続けて「が」。

他 ……………

楽山 がんばれよ、やってやれよ、このまま「が」。

梶田 ♪ぎんぎらぎんにさりげなく♪

楽山 田舎者かお前は。なあお前らよ、もうちよつと真剣にやれよ！おいお前のさつぎのびら

ランロってなんだ、聞いているぞちやんと！

矢野 いいよ、次「ぐ」。

洋子 軍団で、今頃出すの、いぶかしげ。

松本 げげげのげ、なんかに負けない、この覚悟。

沢井 強引に、決めていいかな、オリオン座。

浜野 残念だ、私のカジン、良い感じ。

沢井 冗談を、そんなのよりも、星座の図。

皆 疲れている。

楽山 「ず」だぞ、おい「ず」。

浜野 図に乗るな、お前はちよつと、うるさいぜ。

洋子 全部がね、良いと思うの、ホントだぞ。

矢野 存分に、話して欲しいと、思うのだ。

洋子 だけでもう、そろそろ終わり、終了時。

矢野 あ、それは「し」の濁音だから、「ち」に点々の方じゃないとダメだね。

楽山 そうだぞお？「ち」に点々の方だぞお？

洋子 だんだんと、頭がのぼせて、出る鼻血。

皆 頭を抱える。

楽山 ほら、「ち」に点々だぞ「ち」に点々！ほらほら、もう終わるぞ？「ち」に点々だぞ？ど

うした、終わりか？え？終わりなのか？「が」「を」「た」「ば」「ば」まであるんだぞ。

和田 …日本語で「ち」に点々で始まる言葉は無いって聞いて事あるんだ私、だから鼻血がしりとりで言うところの最強ワードだつて…。

梶田 え、「痔」はダメなの？いぼ痔とかきれ痔とかの。

内藤 あれは本来「し」に点々が正しいから…。

和田 痔を「ち」に点々にした広告があつて、それが広まつたらしいよ？ほら、血が出るイメージにしたくて。

沢井 確かに痔の文字は、やまいたれの中に「寺」だからね、じゃあ「し」に点々だね…。

田山 じゃあどうするの、もう終わっちゃうの？

楽山 何を「ちやちや」言つてんだよ。じゃあ終わりだな、お前（こ）で終わりなんだな？フン、ちに点々で負けるんだな、さまあみろくそが！

矢野 そうね、どうやら（こ）が…、限界みたいね…。

松本 ちやちや三軒 のようなメイド、喫茶沼津。

他 おお…！

楽山 おい「おお」じゃねえからな？茶屋三軒なんて言葉ねえからな？三軒茶屋だからな！三軒茶屋のようなメイド喫茶つてなんだよそれは？それがなんで沼津なんだよ？おいみんな

聞いてくれよ（こ）いつ意味分かんねえぞお！

矢野 オッケー！続きを、「づ」から。

松本 漬けマグロ、食べに行きたい、沼津まで。

洋子 でも待つて、それどころじゃない、また今度。

浜野 どうしても、やつてみたいの、それは賭場。

洋子 バラバラの、意見集まる、水曜日…。

田山 びっくりだ、皆のヤル気が、吹きすさぶ。

沢井 ぶっちゃけて、私のホント、すごいんだべ。

楽山 またやりやがったよ…。

洋子 ベストはね、意見まとめて、皆エクボ。

和田 ぼたもちも、安倍川餅も、皆一派。

楽山 何が言いたいんだそれ！

内藤 パンケーキ、よりもおいしい、あのレシビ。

梶田 ピアノあり、投げてあげるよ、紙テープ。

浜野 プランがさ、今時そんな、田舎っぺ。

梶田 ペンライト、振つてみたいよ、第一歩。

矢野 拍手。

皆 ぐったり。

楽山 やったじゃねえか…。お前らやったじゃねえか。怪しい所は随所にあつたけど、やれた

じゃねえかやれば出来るじゃねえか。

浜野 やれたけど、なんにも決まってるない…。

沢井 全然言いたいことが言えない…。これ、伝わってる？

洋子 どうだろう…。

内藤 なんとなくは、わかつたけど…。え、皆あるんじやんやりたいこと、なんでそれ最初に

言わないの？

田山 そしたらこんな居残りしなくて済んだのにね…。

梶田 そんな自分だつてそうじゃん…。

内藤 私は別に、何も無ければ、くらしいの気持ちで言っただけで…。

浜野 じゃあやめる？なんだつて、甘い物屋さん。

内藤 クレープ屋。

沢井 あとなんだつて、食べ物が幾つかあったよね。

和田 あ、お餅の事だね。

梶田 食べ物はせてみてひとつでしょ。

沢井 あれ、なんだつて、食べ物だね？

松本 あ、メイド喫茶。

浜野 メイド喫茶はなあ…。

内藤 メイド喫茶でクレープ出したらどうなの？

和田 あ、それいいんじゃない？お餅も出そうよ！

内藤 いやメイドは洋服だからお餅と合わないんじゃない？

和田 和服のメイドは居ないの？

松本 いいけど、クレープもお餅もお化けに勝てますか？お化けより、怖くなるの？

和田 見た目は怖くないけど、内面は怖いかもしれない。

松本 私はB組に勝てればなんでもいい。

沢井 じゃあ私のにしようよ。

浜野 あれどういうもの？よくわかんなかったんだけど。

沢井 だから宇宙船に乗って、宇宙空間を体験するのよ。プラネタリウムとジェットコースタ

ーを合わせた感じ。

浜野 いやそれ大変だつて、

内藤 うん聞いてるだけで大変。

沢井 大変だからやりがいがあるんじゃない。

浜野 間に合わないよ今週末だよ？

沢井 だからもう決めようよ。

矢野 じゃあ私から、いいかな。

皆 「またか…」と頭を抱える。

洋子 ……。

矢野 皆の頑張りを見せてもらえた。私は居ないけど、皆で力を合わせれば、きっと良い文化

祭になるって確信しました。

皆 矢野さん…。

矢野 五七五でしりとりなんて無茶な事言つてごめん。今度は五でいいや。

洋子 ……？

矢野 五。五文字でしりとり。

洋子 ……？

沢井 ちよつと待って、短くなつてるじゃん。

内藤 それ、全然喋れない…。

浜野 うん、話し合いにならないんじゃない？

洋子 矢野さん、五文字でしりとりして、しかも五十音順で話すの？

矢野 楽しそうね。

洋子 出来るのかそんなこと…。

矢野 楽山君。

楽山 やれよ！五文字で五十音しりとり！出来るか出来ねえか、やってみねえとわからねえだ

ろーだいたいお前ら喋りすぎなんだよ。俺はずっと思つてたぞ、五七五の七五が多いつて

なあ。お前ら七五があるとすぐ余計なこと喋り出すからよ、五で簡潔にいけ。わかつたな！

矢野 では、「あ」から！

沢井 ああ、つらい。

浜野 嫌もつ。

内藤 うめきこえ。

梶田 えすぐ顔。

田山 おそろしか。

松本 髪ほじき。

洋子 ききごらく。

和田 くぐりぬけ。

楽山 おい！お前らさつきから文句ばつか言つてんな。決めろよ文化祭。話し合え。

沢井 いや、これ無理だつて、話せない…。

洋子 矢野さん、これでは話し合いになりません。今日中に決めないといけないんです。

矢野 そう、これは厳しいか…。

和田 ただのしりとりならいけるんですけど、

矢野 ただのしりとりをしてもね…。

和田 ですよね…。

洋子 せめて五十音順じゃなければまだ…。

浜野 え、本当？いける？

梶田 まあ、それなら…。

矢野 じゃあ、そうしてみますか…。

楽山 ダメだ…。やれよ、このまま。

矢野 楽山君…？

楽山 「け」から。いいか、やり始めたら最後までやるんだよ。中途半端で終わらせんな。俺

はな、今まで何やるにしても中途半端で終わらせてきたんだも…二度と、中途半端な事はやらねえと誓ったんだ…。

楽山 座る。

沢井・浜野 いや知らんし！

沢井 それはあんたの勝手。なんであたしらがやらなканの？

楽山 気持ちわりいんだよ！途中で終わるのが…。

浜野 そもそもこれだつてやらなくてもいい事やつてんだからね？

楽山 だつたらなんでお前らしりとりなんか始めたんだよ？！俺すつと最初から聞いてたぞ？しりとりやつてたよな？なあ？しりとり！しりとりで喋ろうと思つたんならすつとしりとりだろうがよ！途中でやめんな。てめえら遊び半分で始めるからこうなるんだよ。しりとりだからつて甘く見るとひでえ目遣うぞ。矢野、お前も辞めんな。

矢野 楽山くん…。

楽山 金輪際、俺の前で中途半端な事は誰であろうと許さねえからな。さあ、「け」から！

矢野 でもこれは…、親の都合だから、私にはどうしようも出来ないんだよ。

楽山 ならいいや。

他 え？

楽山 ほら「け」から！お前ら途中でやめやがったら、罰としてこれからすつと三文字で喋ら

すからな、はい「け」。

洋子 けどいつこ、こうしてき、再度足し、絞り出す、すぐ許せ。

楽山 何言つてんのか全然わかんねえな…。

矢野 わかった、そうやって続けて言うことを許可します。

洋子 戦意出そ！

和田 そうだった、体重値、近く待つ。

他 ？

和田 作るつて、手に取ると、とにかくな、なごやかに、二個を得ぬ。

楽山 何言つてんだよ…。

内藤 抜けるのね？

和田 寝返るの。

梶田 乗る？ヤマハ。

内藤 配達費…。

沢井 引く旨詞。

田山 二人の尻。

松本 変なアホ。

間。

洋子 ホントの間。

和田 参るのみ。

浜野 見る？ゲーム。

和田 無理な夢、メイドかも。

松本 もういいや、ヤル気冬。

田山 (沢井に) ゆうてるよ…？

松本 夜の空、ライブラリ、利用する。

沢井 …る、ルールどれ？レートやろ？

浜野 …ロシアだわ、私のが…柄がヤギ…。

内藤 ギリのフグ。

梶田 ぐるりハゲ。

田山 劇たまご。

松本 午後の瘧。

沢井 ざらの恥。

和田 時もあらず。

洋子 ずつとなぜ？全部謎…。

梶田 ぞうきんだ、だいぶ千々。

皆 天を仰ぐ。

楽山 ほらほらまた「ぢ」だぞおっおい、今度はどうすんだあ？同じ事禁止だからなあ！茶屋三軒はもう使えねえぞお、五文字だからなあ！湯飲み茶碗はダメだぞお、先に言っちゃったぜ。ちなみに関係ないがチンジャオロースは「し」に点々だからなあ！わはははは、わーっはっはっはっは！

外では突風が吹く。

洋子 風が出て来た…。

沢井 やっぱ来てんだね、台風…。

松本 そろそろ帰らんといかんのじゃない？

皆 窓の方へ。

楽山 おい、「ぢ」はどうすんだよおっおい！！「ぢ」！

田山 ああ、テントが…、

沢井 ほら、飛ばされそう。

矢野 (窓の方に近寄り) お疲れ様 やっぱ難しいね。

洋子 難しいよ…。

梶田 もう頭が爆発しそう…。

田山 眠い…。

浜野 なんも考えられんね…。

矢野 「ぢ」か、そこで止まるんだなあ、五十音順しりとりは。

梶田 濁音がダメ。「わ」までなら終わってたからね。

沢井 そうだよな。

楽山 おい、途中でやめたから三文字だぞ。

皆 ため息を吐き、文句を言おうと楽山の方を見るが、

矢野 私…、いつか、国語 教え、やるよ。

洋子 いいね。

矢野 ガツコ、いつも、不在、だけど、資格、取るよ。

和田 矢野は、どこに、行くの？

矢野 言えん。

和田 なんて？

矢野 それは、夜逃げ。

和田 マジか。

洋子 じゃあ、せめて、住処、寄せ。手紙、書いて、写真、送る。

矢野 感謝。でもね、無理だ。

洋子 なぜだ。

矢野 夜逃げ。

洋子 そうか。

浜野 ならば、ともに、今は、帰ろ？

矢野 無理だ。

浜野 なぜだ。

矢野 夜逃げ。

沢井 まさか、今夜？

矢野 夜逃げ。

田山 夜に？

矢野 黙れ。

洋子 (田山に) 気付け。

矢野 私…、ずっと…、とても…、いつも…、皆と…、話…、皆無。

洋子 そんな…。

矢野 感謝！

皆 なんの！

矢野と皆 お辞儀をする。

楽山 なんかお前らロボットみたいになつてるぞ…。

矢野 じゃあ、行くね。

松本 今夜、嵐、皆も、行こう。

浜野 着替え。

皆 行こうとする。

洋子 待つて、私、上に、報せ、せねば。結果、さつき、話、なんだ？

他 …。

和田 私、お餅、やめる。メイド、いいな。

松本 そんな、私、宇宙、好きよ。お化け、勝てる。

沢井 やはり、無理だ、残り、二日…。だから、カジノ。

浜野 やっぱ、博打、それは、教師、激怒。甘味、やろう。

内藤 実は、あんま、自信、無いの。

浜野 なんだ？

内藤 だから、歌と、踊り。

梶田 いいよ、だけど、誰か、楽器、弾ける？

他 まさか。

梶田 私、弾けぬ。

洋子 じゃあ、

梶田 芝居？

田山 …。

洋子 無理だ。

沢井 うちら、

浜野 ではな。

田山 そうか…。

和田 洋子、無いの？

洋子 私？

沢井 そうだ、洋子、言えよ。

洋子 私…、

内藤 洋子、言えば、それで、決まり。

洋子 そうか…、

浜野 洋子、好きな、もので。

洋子 承知、決めた。

浜野 なんだ？

洋子 餃子！

沢井 却下。

洋子 なぜだ…。

和田 なんか、他に、無いの？

梶田 ヤバい、これは、ゴミか…？

浜野 マズい、

松本 ムズイ、

田山 ハズイ、

内藤 イタイ、

和田 イモイ、

洋子 美味い、餃子。

他 臭い。

楽山 矢野は、あるか？

矢野 …。

洋子 そうだ、矢野が、言えよ。

他 そうだ。それが、いいぞ。

矢野 うーん、

校内放送。

先生「皆、すぐに、帰れ。嵐、来るぞ。全て、全部、すぐに、帰れ」

浜野 ちよおもおいかん、ホント着替を取ってくるわ。

松本 私も。

和田 私鍵取ってくんね。

沢井 お願い。

浜野、松本、和田、去る。

洋子 え、待って、これ、じゃあ私らどうなるの？明日でもいいのかな…

内藤 まあ非常事態だからね…。

矢野 なんでもいいんだけどね、ホントに…。

洋子 どうしたらいいのよ…。

沢井 椅子、片そっか。

洋子、グラウンドの方を見ている。

他の皆は椅子を片付ける。

窓がカタカタ揺れて、風が強くなってくる。

洋子 あ、またさっきの頭皮だ…。あいつあんなどこで何やってんだ…。おい、お前が本物

の宇宙人だったらさ、今週の文化祭中止にしてくんない？…♪ふれーふれー頭皮 ふれー
ふれー頭皮(ー)ー(ー)ー あたまはかがやく、たいようのように…

洋子、ひとり呟くように先ほどの運動会の応援歌を歌う。

と、その途中くらいから途端風が止まり、雲も晴れ渡り、

強烈な西日が差し込んでくる。

やがて校内放送が、

徒は、引き続き、文化祭の準備をしてください。

洋子 …。

カラスが鳴いた。

浜野と松本、戻って来る。続いて和田も。

浜野 え、なんで？

松本 どういうこと？

洋子、ゆっくりと俯く。

矢野 あ、じゃあ、また始める？

洋子 …はい。

楽山 椅子に座ってニヤニヤしながら、

楽山 じゃあ二文字だな、次は。

皆 深く深く溜息を吐いた。

矢野 では…あの、ワレ、案、無い。

洋子 なに？

矢野 無い。

洋子 いや、ある。

矢野 無い、詫び。

洋子 いや…。

矢野 無い！

洋子 もう！皆！出せ！

他 無い！

洋子 出せ！

和田 先ほど、先生からありました、暴風警報ですが、解除されました。校内に残っている生

梶田 無い。

洋子 アレ！

梶田 無理。

洋子 なぜ？

沢井 無い。

洋子 アレ！

沢井 いや、もう…。

洋子 良い！

田山 無理！

洋子 君！

内藤 うか、ばん。

洋子 おい！

浜野 ゼロ！

洋子 コラ！

浜野 どう？

松本 ノー！

浜野 どう？

和田 ナシ！

洋子 もう！

他 うん…(うつむく)。

楽山 じゃあひと文字で。

矢野 え？

他 は？

洋子 で？

和田 え？

洋子 ん！

和田 お

他 は？

和田 や

洋子 え？

浜野 う、

他 え？

洋子 は？

浜野 く

洋子 ん？

もはや、なんのことだかわからないまま会議は続く。

溶暗

〜終〜

【上演記録】 2019年10月4日～14日 損保ジャパン日本興亜人形劇場ひまわりホール

この戯曲の著作権は、作者である平塚直隆にのみ帰属するものです。
上演許可あるいはその他のお問い合わせは、作者の所属する「オイスターズ」へどうぞ。

■ オイスターズ ■

ホームページ

<http://oysters.official.jp>

メールアドレス

theatrical_unit_oysters@yahoo.co.jp